



おれんじニュース

No.4 2 2

2025 年 7 月

CONTENTS

月例山行案内	2
お知らせ	3
定期トレーニング	4
普賢岳	5
屋久島	6
エベレスト遠征の日々④	8
おれんじカレンダー	10

佐渡 大野亀

2025 年	7 月	8 月	時 間	場 所
専門部会	26(土)	30(土)	13:30~14:30	西諫早公民館
全体集会			14:30~16:00	



月例山行案内

7 月

★下記は変更になる場合があるので最終的に配布される計画書で確認願います。

部	自然・山行部	技研部	ひまわり部
月 / 日 (曜)	7/6(日)	7/13(日)	7/25(金)
山名(行事)	笠置山	初心者の為の沢登り	絹笠山
地 図	直方市	大村市黒木町	雲 仙
集 合 場 所	西諫早駅 7:30	緑地公園 9:00	緑地公園 9:00
難 易 度	体力 1/技術 1	体力 1/技術 1	体力 1/技術 1
帰 着 時 間	18:30	15:00	15:30
歩 行 時 間	3.0h	—	4.0h
交 通 手 段	マイクロバス	マイカー	マイカー
宿 泊 施 設	なし	なし	なし
温 泉	なし	なし	なし
参 加 費	4,500	—	800
申 込 期 限	6/29(月)	7/5(土)	7/22(火)
集 約	工 藤	本 多	田 中
備 考	山麓に千石狭と笠置ダムを持つ山城跡。展望がよく、英彦山の山並みが遠くに見える。	ロープワークの技術を学習し、安全な沢登りを習得する。	オオキツネノカミソリとナツエビネを見る。

8 月

★下記は変更になる場合があるので最終的に配布される計画書で確認願います。

部	技術部	自然・山行部	ひまわり部
月 / 日 (曜)	8/11(月)	8/24(日)	8/29(金)
山名(行事)	初心者の為の沢登り	雲取山	多良岳
地 図	大村市黒木町	徳力、金田	多良岳
集 合 場 所	緑地公園 9:00	西諫早駅 6:30	緑地公園 9:00
難 易 度	体力 1/技術 1	体力 1.5/技術 1.5	体力 1/技術 1.5
帰 着 時 間	15:00	18:00	15:00
歩 行 時 間	0	4.0h	4.0h
交 通 手 段	マイカー	マイカー	マイカー
宿 泊 施 設	なし	なし	なし
温 泉	なし	なし	なし
参 加 費	600	4,500	800
申 込 期 限	8/4(月)	7/5(土)	7/22(火)
集 約	堺	工 藤	田 中
備 考	沢登り実技No.2	溪谷の滝などを見ながら雲取山に登り、福知山ダムに下る。	西野越～西岳～金泉寺～多良岳。

事務局より

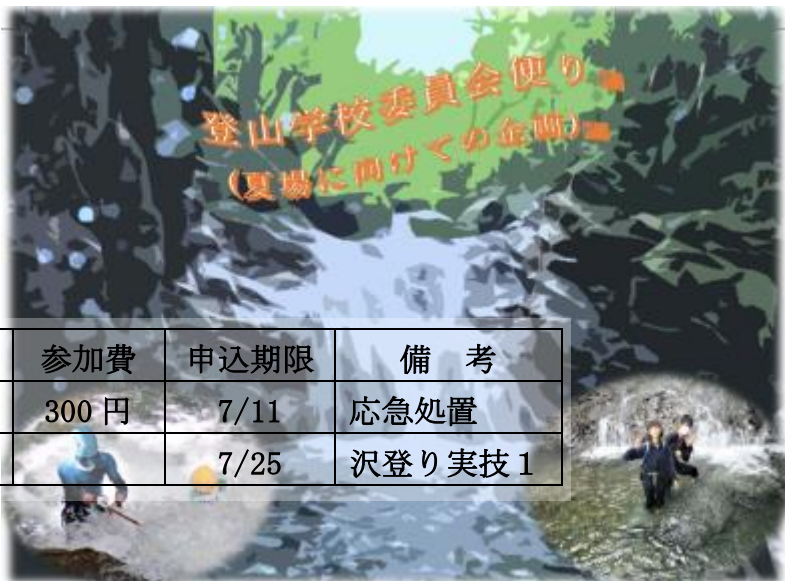
- ①全国ハイキングリーダー学校実技登山講習会参加しました
本多さんは、6月7日(土)～8日(日)北八ヶ岳の唐沢鉱泉で開催された
全国ハイキングリーダー学校に参加され、東天狗岳に登頂しました。
詳細は全体集会などで報告があります。



- ②上部団体や他団体などが主催する
講習会や教育機会に積極的参加を！
山を愛するものとして、自己の知識、技能
の研鑽に努めましょう。

- ③県連登山学校に参加しよう

開催日	時 間	場 所	参加費	申込期限	備 考
7/12	10:00	県立総合体育館	300 円	7/11	応急処置
7/27	10:00	黒木ウナギデ沢		7/25	沢登り実技 1



- ④雷が鳴っていたら高い木の傍は危険！

積乱雲によりにわか雨が降りだした時、とりあえず雨を避けようと大きな樹の下に入ると雷に打たれる事故が多い。人体は電気を通しやすいので、高い樹に落ちた電気は樹の傍に人がいればその人に飛ぶ。高い樹の幹や枝から 4 m以上離れることが必要です。

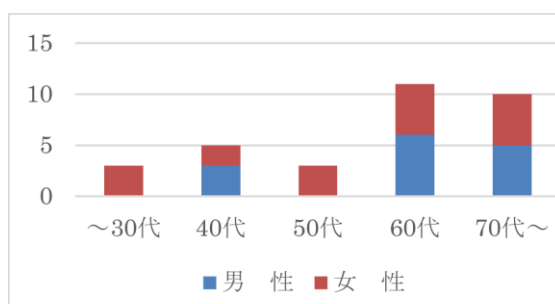
また柱だけのあずまやも危険です、安全なのは山小屋や自動車の中で、要は壁に囲まれていることが必要です。

雷の射程距離は 10 kmと言われているが雷鳴の聞こえる距離も同じで、雷鳴が聞こえたら即雷を避ける行動が大切です。即ち、しゃがんで姿勢を低くし、傘はささず、ザックにポールやストックが差してあれば取り外すなどの注意が必要です。

- ⑤事故発生状況

ひと月の事故集計例(JWAF 令和 7 年 4 月)

年代	～30 代	40	50	60	70 代～	合 計
男性	0	3	0	6	5	14
女性	3	2	3	5	5	18
合計	3	5	3	11	10	32



60 代以上の事故者数の多い原因

1. 登山者の高齢化

2. 体力、体機能の低下

過去の栄光は過去のもの、過信せず、現在の体力、技術力、判断力を直視し、無理の無い登山を心がけましょう。

定期トレーニング

コンパニオンレスキュー

開催日	場 所	参加者数	備 考
6月7日(土)	土師野尾ダム	7名	ロープワーク基礎



ロープタンカ



ダブルボーラインノット



スタッカー

下からのビレー



火曜登山

開催日	場 所	参加者数	概 要、行 程
5月13日	前 岳 多良岳	5	前岳～多良岳
5月20日	高木町～おたちね観音～水神様	6	シャクナゲ鑑賞
5月27日	吾妻岳	6	田代原公園～東尾根縦走
5月 6日	黒 岳	3	自然歩道入口～頂上往復

水曜登山

開催日	場 所	参加者数	概 要、行 程
5月 7日	普賢岳	7	仁田峠～鬼人谷～立岩ノ峰～普賢岳
5月14日	大花山	6	富川溪谷、大花山往復
5月28日	石割山	10	
6月 4日	雲 仙	9	吹越～妙見尾根～国見尾根

緑の地平線歩き

開催日	場 所	参加者数	概 要、行 程
5月 8日	犬山城	5	歌垣公園から犬山城
5月22日	大村城址、竜神島	5	大村城周囲の森、浜散策
5月29日	富川溪谷	4	五百羅漢像、吊り橋
6月 5日	本野ダム予定地周辺	3	本野から湯の尾町散策

4/27(日) 普賢岳

行 程

緑地公園 9:00—仁田峠 P 10:15～紅葉茶屋 11:20～立岩峰(昼食) 12:25～普賢岳 13:10
～紅葉茶屋 14:00～薊谷休憩所 14:20 ～仁田峠 P 14:55～緑地公園 16:00

概 要

普賢岳は定例山行では2021年11月以来のようだ。身近な山で四季折々、皆さん登られているが、今回は普賢岳の春の草花ミヤマキリシマ、ヒカゲツツジを楽しみたいと思う。ゆっくり班は霧氷沢までの予定だったが、当日の11名の参加者を確認後、ゆっくり班は編成せず周回することにした。皆さんの協力でゆっくりではあったが、全員完登。残念なことにヒカゲツツジは遠くに見える程度で、1～2週間早すぎた感じだった。



一言感想

* 天気に恵まれて気持ちの良い、最高の登山になりました。登山道の脇には小さな可愛い花が沢山咲いていて、楽しませてくれました。立岩の峰から見える岩と、霧氷沢にはツクシシャクナゲの木はありますが、残念ながら花は咲いていませんでした。普賢岳からは遠くまで見渡せ、360度の展望を楽しむ事が出来ました。今日も一日気持ちの良い汗をかき、心と体のリフレッシュができて、満足しました。

4/15～4/19 屋久島登山紀行

参加者 宮之浦岳：工藤、今坂、白石 モッチョム岳・愛子岳：乾

◇宮之浦岳・行程

15 日 4:30 諫早 IC-9:30 鹿児島港着、強風の為高速船、フェリー欠航。鹿児島市内に宿泊。
16 日 8:30 発のフェリーで宮之浦港―市内バスで紀元杉 BS―淀川登山口～16:40 淀川小屋(泊)。
17 日 4:00 小屋発～7:00 黒味岳分岐～黒味岳往復分岐 8:00～11:50 宮之浦岳
～15:20 新高塚小屋(泊)
18 日 6:00 新高塚小屋発～6:40 縄文杉～大王杉～8:20 ウイルソン株～9:00 大株歩道入口
(トロッコ道)～仁王杉～三代杉～11:20 楠川分れ～12:30 辻峠～13:00 白谷小屋(泊)
19 日 6:00～くぐり杉～奉行杉～サツキ谷橋～しろたえの滝～8:10 白谷雲水峡 BS 9:00
―9:35 宮之浦港 BS―10:40-高速船-12:30 鹿児島港―18:30 西諫早駅。



・概要

淀川登山口からの登山道は狭く、低木の中を木の根、小石に注意しながら粛々と進み、約 30 分で目的地の淀川小屋に着いた。昼間の天気は曇りで気温は 10 度ほど。しかし真夜中は 3～4 度しかなく、フリースさらにレインコートを着込んで寝袋に入ったが、寒くて眠れず熟睡は 1～2 時間程度だった。3 人とも同様に寝不足のまま朝 4 時山小屋を出発。

ヘッドランプを頼りにまた狭小な林間の湿った登山道をゆっくり進む。この間は木造の階段が多く、足元に注意しながら進んだ。しばらくすると夜が明け、湿地帯の風光明媚な花之江河で休憩して、7 時に分岐から黒味岳へ登る。多少の起伏と数か所のロープ場のある登山道を進み、頂上手前からは大小の岩が現れ、最終的には巨岩上が黒味岳の山頂だった。標高が上げれば風が強くなり、頂上で記念写真を撮り足早に下ることにした。ここからの展望は雲に遮られたが、流れる雲の一瞬の隙間から岩と樹木の特徴のある周囲の山容が確認できた。

黒味岳を過ぎるとまた低木の樹林帯と岩石の合間をぬって進む。途中展望のある場所からは特異の形態の太忠岳他、奇怪な岩山がみられて面白い。栗生岳まではゆっくりした登りが続き、宮之浦岳頂上手前で少し急登があり、ほぼ予定通り 11 時 50 分に宮之浦岳に到着。

この日は外国からの登山者も多く、頂上は混雑していたが、空腹と疲労で座り込み、昼食をとって展望を楽しみ 40 分程度休憩した。この頃になると多少の晴れ間も見え隠れしたが、まだ風が強く肌寒いので素早く山頂を後にした。

ここからの登山道はほぼ下りになり、視界も良好でのんびりと歩いた。途中数か所には残雪を確認して驚いた。

焼野三叉路から新高塚小屋を目指して尾根を歩いた。

途中には 2 か所の展望所があり、天候も回復したので特徴のある遠くの岩山まで望めた。また登山道の両側面にシャクナゲが群生しトンネル状態となった場所があった。開花時には綺麗だろう。宮之浦岳から約 3 時間で新高塚小屋に到着。日暮れ前になると小屋は満杯となった。



サクラツツジ



奇岩



平石展望台付近の大岩



縄文杉



ウィルソン株



苔むす森

3日目は新高塚小屋を6時出発。この付近から大杉が徐々に増え始め、縄文杉を柵外から眺め、夫婦杉、大王杉などの巨木を見ながら下るとウイルソン株に着く。株は空洞で中に祠があり、頭上の切り口はハート形に見える。大株歩道入口まで下ると、トロッコ道となり軽装備の大杉目当ての多くの登山者とすれ違った。トロッコ道はよく整備されていて、起伏もなく歩きやすかった。3.5km程歩くと軌道敷と別れて、緩勾配の楠川歩道を約1時間で辻峠に着いた。白谷小屋までは約20分の下りで途中幽玄な苔むす森を鑑賞したが、雨が少なかったか色彩がぼやけて少し物足りなさを感じた。

白谷小屋には13時着。他の宿泊者もなく我々3名で貸し切り、夕方5時には夕食を済ませて、のんびりした時間を過ごした。ここも日が落ちると夜は気温が下がり、結局3日間とも重装備での宿泊となった。翌朝は6時に小屋を出発。白谷雲水峡の遊歩道を下り、バス停に8時過ぎに到着。

バスで宮之浦港まで35分、途中の溪谷と山肌の清楚なサクラツツジが満開で綺麗だった。

◇モッチョム岳・愛子岳：行程・概要

17日、晴、モッチョム岳：登山口の千尋滝から、万代杉などを経て3時間登り続けて最高点神山展望所へ着く。詰めは岩峰へロープを頼り登ると絶景の山頂だ。

4:50 原集落～5:42 千尋滝～登山口 6:03～8:44 神山展望所～9:28 山頂 9:44～10:21 神山展望所～12:16 登山口



トロッキーの滝からモッチョム岳



小瀬田集落から愛子岳

18日、曇、愛子岳：地図には山頂まで3時間30分とあるのみだが、200m毎に植生案内板有。真骨頂は山頂までの標高差200mの岩場の急登だ。雲で山頂からの眺望無し。

8:20 小瀬田 8:40～9:07 登山口～11:40 1,000m 地点～12:42 山頂 12:54～14:53 登山口

感想

- *初めての屋久島登山で九州の最高峰に登頂出来て感激した。当初予想していた雨にもあわず順調な行程で良かった。再度シャクナゲの開花時期に訪れたい。
- *屋久島特異の形容の岩山は非常に面白かった。また、縄文杉を始め多くの巨大な杉も見応えがあり、苔むす森等自然を満喫できた。
- *3日間とも初めて無人小屋を利用した縦走だったが、登山道は迷うことなく予定のルートを完歩できたことは自信になった。
- *天候に恵まれ屋久島縦走登山を終えたが、まだまだこの島は奥が深く再挑戦したい。モッチョム岳、太忠岳、永田岳などの岩峰に登頂してみたい。

エベレスト遠征、70 日の日々④

8,848m 1998 年 川原慶紀

ハン・テングリ

エベレストの前に

エベレストの名を心に浮かべた日、私の人生は一つの選択をしました。
夢見るだけか、それとも命を懸けるのか。

この山は、思いつきで登れる所ではない。極限の寒さと薄い空気が、挑戦者の全てをさらけ出し、試し続ける。だから私は、まず耐える身体を作り、命を守る術を学び、心を鍛えた。だが、それだけでは辿り着けない。
必要なのは、幾つもの高所に身を置き、自らの限界を知り、そして超え続ける事
山の静けさの中で、何度も自分自身と向き合い、弱さを飲み込み、恐れを知る事
これから二回に分けて、その軌跡をご紹介します。

ただの山行記録ではありません、夢と命の狭間を歩く、一人の人間の物語です。

1989 年 ハン・テングリ峰

1989 年、ロシアが世界中に呼びかけて開設した「天山キャンプ」に参加しました。

これは天山山脈の氷河上に設けられたベースキャンプを利用し、ヘリコプターで容易に入山できる高所登山イベントで、世界中から登山者が集まるものでした。

私は日本隊として、ハン・テングリ峰 (7,010m) 登山に参加。この山は「精霊の王」と呼ばれ、天を鋭く突くような急峻な山容と、遠くからはダイヤモンドのように輝く美しい姿で知られています。



頂上には立つ事ができましたが、下山中に仲間の一人が 1,000m 以上滑落し命を落とす痛ましい事故が発生しました。私も捜索隊に加わり、雪の中から遺体を収容する事が出来ました。新潟空港で遺族と登山隊が対面し状況説明を行いました。遺族の一人から「皆さんはこうして無事に帰られているのに、なぜ彼は帰れなかったのか」と詰め寄られる場面がありました。

その時、父親が親族を制し、「この度は息子が事故を起こし、皆様にご迷惑をお掛けしました。更に捜索までしていただき、息子は家に戻る事ができました。本当にありがとうございました。皆様もお疲れでしょう、どうぞ早くご自宅で休養なさってください」と深々と頭を下げられました。

私たち登山隊 8 名は、ただ黙って頭を垂れるばかりでした。

そしてその時、「父親とはかくも辛いものか！」と胸を打たれる思いがありました。

ポベータ峰

7,439m キルギス/中国 1990年

1990年 ポベータ峰

標高 7,439m のポベータ峰。前年に登ったハン・テングリ峰の向かい側に、その巨大な山容を横たえていました。1990年の夏、前年と同様にロシアが開設した氷河上の国際キャンプを拠点に登山を開始。第一、第二、第三キャンプと順調に高度を上げ、いよいよアタック隊3名で山頂を目指そうとした日から激しく雪が降り始め、3日3晩も降り続けました。

その間、下からの食料補給は途絶え、限られた食料でしのぎながら天候回復を待ち続けます。

4日目、深雪のため荷上げ不可能との無線連絡を受け、わずかな雪の止み間を縫って下山を決断。

高度 7,000m に滞在し続けた疲労と食料不足の中、ほとんど体力を失いながらも、下山開始後ようやく2日目にベースキャンプへ戻ることができました。

この経験を通じ、食料が絶たれると飢餓状態は驚くほど早く訪れるものだと実感しました。

そして、日本の食料自給率の低さを思い、もし戦争などが起これば輸入が止まり、すぐに国民が飢餓に直面するのではないかと、ふと考えさせられました。

この登山の折、日本からトレッキング隊も氷河のベースキャンプを訪れていました。

その中に、前年ハン・テングリ峰で遭難した隊員の父親も参加されていました。氷河の上を飛ぶヘリの中で、正面に広がる遭難の山を目にし、声を殺して泣いておられたと後で聞きました。

隣に座っていた事情を知らない長崎から参加のMさんが「どうされましたか」と声をかけると「この山でちょうど一年前倅が遭難し亡くなりました。今日まで涙を流す事はありませんでしたが、今、目の前にして涙が止まりません」「よく耐えてこられましたね」「私が泣けば、家内がもっと辛くなると思い、今まで堪えていました」と話されたとのこと。ヘリに同乗していた全員が、もらい泣きをしたと聞きます。やはり、山で命を落としてはいけないのだと痛感しました。

その時父親からMさんに「貴方は長崎の方ですか」と声をかけられ「息子の遭難の際に、長崎のKさんという方が遺体捜索に尽力して下さったと聞いています」と言われ、Mさんは「もしかするとベースキャンプで会えるかもしれません」と答えました。そして私が大雪の中を下山し、ベースのテントに戻っていると、遭難した隊員の父親が私を訪ねてこられたのでした。

静かに言葉を交わしました。過酷な自然と、重い人の想い。その両方を胸に刻んだ峰々でした。

それは、エベレスト挑戦の覚悟を心ひそかにかみしめた事でもあります。

おれんじカレンダー

7月			8月		
1	火	火曜登山（自主）	1	金	
2	水	水曜登山（自主）	2	土	コンパニオンレスキュー
3	木	緑の地平線歩き（自主）	3	日	
4	金		4	月	
5	土	コンパニオンレスキュー	5	火	火曜登山（自主）
6	日	笠置山（自然・山行部）	6	水	水曜登山（自主）
7	月		7	木	緑の地平線歩き（自主）
8	火	火曜登山（自主）	8	金	
9	水	水曜登山（自主）	9	土	
10	木	緑の地平線歩き（自主）	10	日	
11	金		11	月	初心者の為の沢登り実技2（技研部）
12	土	県連登山学校「応急処置と搬出訓練」	12	火	火曜登山（自主）
13	日	初心者の為の沢登り実技1（技研部）	13	水	
14	月		14	木	
15	火	火曜登山（自主）	15	金	
16	水	水曜登山（自主）	16	土	
17	木	緑の地平線歩き（自主）	17	日	
18	金		18	月	
19	土		19	火	火曜登山（自主）
20	日		20	水	水曜登山（自主）
21	月		21	木	緑の地平線歩き（自主）
22	火	火曜登山（自主）	22	金	
23	水	水曜登山（自主）	23	土	
24	木	緑の地平線歩き（自主）	24	日	雲取山（自然・山行部）
25	金	絹笠山（ひまわり部）	25	月	
26	土	専門部会 全体集会	26	火	火曜登山（自主）
27	日	県連登山学校「沢登り実技1」	27	水	水曜登山（自主）
28	月		28	木	緑の地平線歩き（自主）
29	火	火曜登山（自主）	29	金	多良岳（ひまわり部）
30	水	水曜登山（自主）	30	土	専門部会 全体集会
31	木	緑の地平線歩き（自主）	31	日	

川原顧問所掌 ➡ 緑の地平線歩き (9:00)、コンパニオンレスキュー(第1土曜 9:30) 緑地公園集合

発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	工藤 学
編集責任者	高田啓子
編集委員	工藤学、福田清人、吉原昌弘、陣川光子、 中野美津子、西寿男、福岡正廣
発行年月日	2025/6/28
郵便振込口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com



オレンジ HP QR